

2026 年度  
事業計画



学校法人 宮城学院

---

---

---

---

<b>1. 法人に関する事項</b> .....	<b>- 1 -</b>
(1) 教育・研究 .....	- 1 -
(2) 社会貢献 .....	- 1 -
(3) 経営 .....	- 1 -
(4) 同窓会との連携 .....	- 3 -
(5) その他 .....	- 3 -
<b>2. 宮城学院女子大学・大学院に関する事項</b> .....	<b>- 4 -</b>
(1) 教育・研究 .....	- 4 -
(2) 社会貢献 .....	- 6 -
(3) 経営 .....	- 7 -
<b>3. 宮城学院中学校高等学校に関する事項</b> .....	<b>- 9 -</b>
(1) 教育・研究 .....	- 9 -
(2) 社会貢献 .....	- 13 -
(3) 経営 .....	- 13 -
<b>4. 宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」に関する事項</b> .....	<b>- 16 -</b>
(1) 0～5 歳児の保育 .....	- 16 -
(2) 食育 .....	- 16 -
(3) 子育て支援 .....	- 17 -
(4) 児童クラブ「森の家」 .....	- 17 -
<b>5. 宮城学院女子大学附属音楽教室に関する事項</b> .....	<b>- 19 -</b>
(1) 教育 .....	- 19 -
(2) 行事 .....	- 19 -
(3) 広報 .....	- 19 -
<b>6. キリスト教センターに関する事項</b> .....	<b>- 20 -</b>
(1) キリスト教センター運営委員会 .....	- 20 -
(2) その他 .....	- 20 -
<b>7. 資料室に関する事項</b> .....	<b>- 21 -</b>
(1) 本学院の歴史に関する資料の整理・保管、調査・研究及び情報の提供・公開について ...	- 21 -
(2) その他 .....	- 21 -

---

---

## 1. 法人に関する事項

### (1) 教育・研究

建学の精神を基礎とし、教育面では、グローバル化・情報化が進む時代にあっても、地の塩・世の光として社会に貢献できる有為な人材を育成するため、①建学の精神に基づいた教育、②本学院独自の女子教育、③本学院独自のリベラルアーツ教育、④時代に即した教育、⑤グローバル教育、⑥教育の質の保証、⑦本学院内の各校の連携強化、⑧キャリア支援の充実、⑨学修（学習）支援の充実、⑩多様化への対応に取り組みます。一方、研究面では、人類の平和と福祉の持続的発展に寄与する学術研究を推進し、その成果を教育にいかしていくため、研究の推進を行います。

本年度の具体的な取組内容は、大学・大学院に関する事項、中学校高等学校に関する事項、「森のこども園」に関する事項を参照。

### (2) 社会貢献

時代に即した社会的課題を解決し、ふさわしい社会の構築に貢献するため、①教育研究成果の社会への還元、②リカレント教育、③地域貢献活動の推進に取り組みます。

本年度の具体的な取組内容は、大学・大学院に関する事項、中学校高等学校に関する事項を参照。

### (3) 経営

本学院の教育活動を継続的に推進するための経営基盤を強化するため、①キリスト教的価値観を共有した組織風土の醸成、②ガバナンス強化とマネジメント体制の確立、③人材の確保、④人材の育成、⑤人事評価、⑥業務効率化、⑦広報の強化、⑧施設設備の促進、⑨財政基盤の強化、⑩同窓生との連携に取り組みます。

#### ア キリスト教的価値観を共有した組織風土の醸成

「礼拝・研修・修養会を通じ、建学の精神の理解・共感を全教職員に浸透させる。」を達成するため、本年度は、新任教職員研修を必修とし、全職員研修の制度設計（教材・配信整備）を行い、理解度・参加率の計測を開始します。

#### イ ガバナンス強化とマネジメント体制の確立

「会議体・権限・PDCAを整え、迅速な意思決定と統制の効いた運営を実現する。」を達成するため、本年度は、会議体棚卸し・分掌見直しを完了し、会議運営標準（アジェンダ・資料・議事録）とPDCAレビュー枠を設計します。

#### ウ 人材の確保

「配置・採用計画を一体運用し、重点職種を迅速に充足させるとともに、教職員の勤労意欲が向上する労働環境の改善に努める。」を達成するため、本年度は、人員需給の棚卸し（職種・欠員リスク）と採用プロセス標準化、ATS/KPI可視化を整備します。

※ATSとは、Applicant Tracking System（応募者追跡システム）の略、採用活動全般を効率化するための採用管理システムのこと。

#### エ 人材の育成

「育成計画に基づく研修体系を整備し、重点スキル到達と実践（アウトプット）を促す。」を達成するため、本年度は、重点スキル設計と研修体系整備（必須研修の骨格化）、アウトプット提出の仕組みを試行します。

## オ 人事評価

「目標・貢献を反映する評価と面談で、納得感と成長を両立する。」を達成するため、本年度は、評価制度を設計（基準・様式・評価者訓練）し、一部試行で課題を洗い出します。

## カ 業務効率化

「手続・帳票を標準化／電子化し、事務負担と残業を継続的に削減する。」を達成するため、本年度は、全所属の業務棚卸しを行うとともに、手続き・帳票の年 10 件改廃、電子決裁・申請の共通基盤を整備します。

## キ 広報の強化

「学院共通の価値を明確化し、統一ブランドで広報・募集を強化する。」を達成するため、本年度は、学院コアメッセージ／ブランドガイドを策定し、Web 導線（資料請求→来校）と計測設計を整備します。

## ク 施設整備の推進

(ア)「施設整備計画を策定し、安全・快適で文化的なキャンパスを計画的に整備する。」を達成するため、本年度は、施設整備計画を策定し、主要 PJ の優先順位・財源・工期を確定（予算・工程管理の標準化）します。

2026 年度実施予定の主な計画は以下のとおりです。

## i 施設設備の整備事業

・ 音楽館屋上防水改修及び外壁改修工事及び監理 (3 年目)	106,711 千円
・ 第二家政館屋上防水改修及び外壁改修工事及び監理 (1 年目)	26,680 千円
・ 分電盤更新工事及び監理 (第三・四期)	174,446 千円
・ 講義館耐震改修工事及び監理 (第四期)	134,800 千円
・ 第二講義館ヒートポンプエアコン等更新工事	41,372 千円
・ 中高棟新校舎建設工事	1,392,051 千円
・ こども園保育室エアコン更新工事	15,840 千円
・ 同窓会館北東擁壁修繕工事	14,300 千円
・ その他	110,496 千円
合 計	2,016,696 千円

## ii 臨時的事業計画臨時的事業計画

・ 中高棟既存棟ネットワーク関係サーバー更新	53,227 千円
・ 食品栄養学科実験室実験台・実験器具更新	65,468 千円
・ その他	36,930 千円
合 計	155,625 千円

(イ)「ICT 基盤を整備し、学習・就労環境の質と安全性を高める。」を達成するため、本年度は、ネットワーク刷新計画と ID/SSO 設計とセキュリティ研修計画を整備します。

※ID/SSO 設計とは、複数のシステムやサービスへのアクセスを、単一の ID と一度の認証（ログイン）で可能にする仕組み（シングルサインオン）を計画・構築すること。

## ケ 財政基盤の強化

(ア)「中長期の教育を安定させるため、財政を健全化する。」を達成するため、本年度は、中期財政計画策定（5 か年 PL/CF・投資計画・運転資金月数の KPI 化）、費目別コストレビュー

(調達・修繕・エネルギー)による年間削減目標設定。部局別予算管理ルール(四半期レビュー・差異±3%内)の運用開始を行います。

(イ)「寄付金等に対する取組を強化する。」を達成するため、本年度は、寄付メニュー整備(用途別:奨学・研究・国際・施設)と年2回キャンペーン開始、使途報告テンプレ・サンクス導線(即時メール+年次報告)の標準化、助成金・補助金リーダー整備を行います。

#### (4) 同窓会との連携

「同窓生とのイベントを定期的で開催し、連携を深める。」を達成するため、本年度は、同窓DB整備(卒年・所属・地域・関心分野)、配信基盤(メール/LINE)導入。情報発信:月1回を開始(在学生の活躍・研究・国際・PBL)、参加しやすいミートアップの設計(地域×テーマ)を行います。

#### (5) その他

##### ア 創立140周年記念事業計画

本年度に創立140周年を迎えます。本学院が更なる飛躍を遂げるための契機となるよう、創立140周年記念事業委員会を中心に記念事業計画の策定と推進に取り組みます

##### (ア) 中高新校舎(教室棟)建築

生徒の学習・生活環境を整備するため、中高新校舎(教室棟)建築を行います。2027年4月竣工予定。

##### (イ) 上谷刈駐車場・グラウンド整備事業

2024年度に取得した上谷刈校地に学生用駐車場及び多目的グラウンドの共用を開始し、学生の交通アクセスに関する課題解決につなげます。その他にも教育研究、地域連携等のさまざまな活動への活用について検討します。

## 2. 宮城学院女子大学・大学院に関する事項

### (1) 教育・研究

#### ア 建学の精神に基づいた教育

大学礼拝及び研修会を通じた建学の精神理解を深め、キリスト教教育プログラムの充実を図ります。

本年度は、①大学礼拝への出席者のべ4500人以上、②教職員礼拝を含むキリスト教活動への参加教職員60%以上を目指します。

①については、礼拝の説教内容とMGUスタンダード科目の授業内容を関連させ、礼拝に対する学生の関心を高めるとともに、礼拝スケジュールの周知方法を工夫します。学内で行われる創立140周年記念イベント等に協力し、自校に対する意識を向上させ、キリスト教への理解を深めます。カリキュラムと関連した学生向けの企画を行い、キリスト教に対する興味を促進します。

②については、創立140周年を記念して、建学の精神・自校史に対する意識を豊かにする研修会等を企画するとともに、教職員礼拝の周知方法を工夫します。

#### イ 本学院独自の女子教育

ジェンダー教育研究センター主導による一般教育とキャリア教育におけるジェンダー教育カリキュラムの整備及び深化を図ります。

本年度は、①「学位プログラムのアセスメント」におけるディプロマ・ポリシー（以下、DP）3「女性のキャリア」の対象科目についてのカリキュラムの点検、②「キャリアデザイン」科目における自己評価レポート実施率においていずれも100%を目指します。

①については、DP3「女性のキャリア」の対象科目について、「授業科目レベルのアセスメント」を実施し、それに基づいて授業内容の改善を図ります。対象科目の担当者でFDを行い、実践報告や意見交換会を行います。

②については、全学部学生に自己評価レポートを実施し、分析したうえで、キャリア支援の方法について各学科担当教職員と意見交換を行います。

#### ウ 本学院独自のリベラルアーツ教育

MGUスタンダード及びリベラルアーツの理念の周知とカリキュラムの改革及び全学的展開を図ります。

本年度は、「学位プログラムのアセスメント」におけるDP4「リベラルアーツ」の対象科目についてのカリキュラムの点検において100%を目指します。

DP4「リベラルアーツ」の対象科目について、「授業科目レベルのアセスメント」を実施し、それに基づいて授業内容の改善を図ります。対象科目の担当者でFDを行い、実践報告や意見交換会を行います。

#### エ 時代に即した教育

学部・学科・専攻の改革改組の取組を適切に行い、地域とともに生きる大学として、地域社会が求める適切な女子高等教育を提供する教学体制を構築します。

本年度は、①全学部の再編計画着手率、②卒業者の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」（以下、MDASH）修了率においていずれも100%を目指します。

①については、2028 年度開設を目指して、教育学部教育学科を軸とする改組を進め、ここに学芸学部音楽科と生活科学部生活文化デザイン学科の再編を組み込みます。また、学芸学部人間文化学科の改組を進めます。

②については、各年度、MDASH のモデルカリキュラムに沿った授業構成になっているかの点検を行います。また、授業評価を基にした授業の質向上のために、運営体制の見直しと必要に応じた改善を行います。

#### オ グローバル教育

在学生のスタディアブロードの経験を質的量的に拡大することによって、国際化教育を進めることに主眼を置きます。また、必要に応じて日本語を用いた留学生の受入れを図ります。

本年度は、①提携校の新規開拓 1 件、②留学生との対面での面談実施率 100%を目指します。

①については、留学報告会、留学説明会、受入留学生との交流会をそれぞれ年 1 回以上行います。提携校の新規開拓のため海外出張を実施します。

②については、早期に留学生とのキャリア相談を実施、本人の進路のニーズを的確に把握するとともに、行政等が実施する留学生就労支援情報を提供するなど個別の支援を実施します。また、留学生の所属学科、国際交流センター、キャリア支援課の 3 者の情報共有の機会をつくり、個別支援の強化を図ります。

#### カ 教育の質の保証

全学的視野に立って、入学定員を適正化します。自己点検及び外部評価の結果を改善に結びつけるとともに、各種 IR データを活用し、自己点検の精度を向上させます。また、外部の視点や学生の意見を取り入れたアセスメントを行います。

本年度は、各授業の到達目標の設定において 100%を目指します。各種のアセスメントを確実に実行し、それに基づいて教育課程の改善を図り、カリキュラムの改定につなげます。外部の意見や学生からの意見を踏まえ、教育課程改善の議論に反映させて、その成果を公表するとともに、シラバスに反映させて、受講生への説明を行います。

#### キ 本学院内の各校の連携強化

宮城学院中学校高等学校との連携と接続を高度化するための制度整備と交流を積極的に進めます。

本年度は、①大学と中高との連携活動数 3 件以上、②高校卒業予定者に占める本学進学率 20%以上を目指します。

①については、全学科・専攻で、高大連携授業を実施します。また、授業については、アンケートをもとに、高大教員間で検討を行います（FD の実施）。探究活動に関わる「学び方」のワークショップやプレ入学授業（先取り授業）を行い、高大接続を図ります。

②については、高校進路指導部と連携して高校生向け学内説明会を企画し、実施するとともに、大学要覧などの広報資料を中高に送付します。

#### ク キャリア支援の充実

現行のキャリア支援制度と活動を維持しながら、状況に合わせた適切な支援制度の充実を図ります。

本年度は、全卒業者における進路不明者 0 人を目指します。キャリア支援課スタッフによるキャリア相談を充実させ、一人一人の希望に即したきめ細かな支援を実施します。各学科

キャリア支援センター委員と学生の進路状況リストを共有し、進路不明者について学科と情報を共有しながら個別的な支援を実施します。

#### ケ 学習支援の充実

入学者への学習支援や経済的支援の制度運用を更に実情に合わせて適切に整備、運用するとともに、ハラスメント防止等、教育環境の整備とその充実を図ります。

本年度は、①学修支援室の支援・相談の稼働日週 2 日以上、②学修支援に役立てるための FD/SD への教員参加率 70%以上を目指します。

①については、学修支援室を常設し、支援員（相談員）を常駐させ、支援体制を整備するとともに、ラーニングコモンズとの連携を図ります。

②については、学内の社会的障壁の解消や情報保障を充実させるため、合理的配慮や特性理解のための FD/SD を毎年実施し、教員の参加率を 70%以上にします

#### コ 多様化への対応

「共生のための多様性宣言」に基づいた多様な学生に対する教育環境整備を維持し、更に実効性の高度化を図ります。

本年度は、人権擁護週間に合わせて性の多様性と人権の尊重に関する啓発活動や、「共生のための多様性宣言」の理解のためのキャンペーン（ポスターの掲示、展示等）、「性の多様性と人権」の理解促進のための学習会・研修会等を含め、年 2 回実施します。

#### サ 研究の推進

科学研究費補助金など外部資金の獲得に努めるとともに、研究所の整理統合を行いながら研究環境のより一層の整備を実現します。

本年度は、常勤教員の研究業績数合計 120 件以上を目指します。

教員ポートフォリオによる研究業績の把握体制と、学内紀要及び機関リポジトリを活用した成果公表の体制を整備します。これらを学内研究助成制度と連動させ、研究成果の公表が次の研究活動につながる循環を形成し、学内の研究活動を推進します。

### (2) 社会貢献

#### ア 教育研究成果の社会への還元

本学の研究成果を、自治体や企業等に適切な形で還元する活動を奨励し、各種協定等の形でその制度整備を進めます。さらに、教育活動を通じた社会貢献を推し進めます。

本年度は、地域の団体並びに企業との意見交換を年 5 回以上、連携企業での複数回からなる人材育成研修を 1 講座以上開催します。地域の団体並びに企業との意見交換を積極的に実施し、地域のニーズを把握するとともに、把握したニーズに基づき、生涯学習講座の拡充や連携企業での研修実施に結びつけます。

#### イ リカレント教育

ジェンダー教育研究センターや生涯学習センター等の社会人向け教育を充実させ、大学教育のリカレント化を図ります。

本年度は、履修証明書を交付する教育プログラムの点検・整備として、関係する学科・研究科への教育プログラムの整備と新規の開設を依頼します。各種免許・資格課程と副専攻プログラムとの連携を検討し、受入れの可能性を広げます。

#### ウ 地域貢献活動の推進

大学の持つ教育・研究・施設等の資源を利用して、地域社会に貢献する活動を進めていきます。

本年度は、地域の団体並びに企業との意見交換を年5回以上、サテライトキャンパスを利用した本学主催の催事を年3回以上、地域の防災対応に関する検討会を年1回以上開催します。

地域の団体並びに企業との意見交換を積極的に実施します。桜ヶ丘、長命ヶ丘、加茂町内会、ランチ仙台、NPO 法人まちづくりスポット仙台等と連携して地域の防災対応を図るための計画を策定し、ボランティアの実施に加え、本学上谷刈校地の活用も視野に入れながら、一次避難を受け入れるための対策について検討します。

### (3) 経営

#### ア 人材の確保

大学教員全体に占める専任教員の比率を上げ、質の高い教員を確保・維持していきます。

本年度は、年次ごとに専任率を算出のうえ人件費ポイントを見直すとともに、非常勤講師の基幹教員としての活用を進め、それらを踏まえた教職員配置計画・採用計画の策定を行います。

#### イ 人材の育成

大学教員等の人材育成を実現するための制度整備を行います。

本年度は、①常勤教員のFD研修会参加率100%、②常勤教員のSD研修会参加率100%、FD/SD研修会アンケート回答者のうち「本学の課題に照らして有意義」の肯定的回答90%以上を目指します。

①については、5月に学科・専攻の授業改善のためのFD研修の計画を作成し、7～8月に実施して参加率の向上を図り、9月に実施報告をとりまとめ、公表して成果を共有します。非常勤講師に対し、オンラインでの研修参加を働きかけていきます。

②については、年度最初の教授会にて、前期中に計画されているSD研修会について再度案内し、その後、内規に基づき、6月に年度後期から翌年度前期までのSD研修会の日程をとりまとめ、7月の教授会にて案内します。その際、昨年度から継続して行われる研修会については、前回のアンケート結果を踏まえて改善点を確認し、必要に応じて実施部局に改善を促すとともに、「教員ポートフォリオ」等を踏まえて、関連する課題の講師となる適任者を推薦します。各研修会の実施後は内規に基づき報告の提出を求め、報告内容を確認し、次年度への総括につなげます。また、10月の教授会にて、昨年度後期から実施されてきた1年間のSD研修会についての報告書を共有し、総括を行います。こうしてSD研修会の質を高めつつ、なお未出席者がいる場合には、5月の学長連絡会議で未出席者リストを共有し、学部長を通じて出席を促します。

#### ウ 人事評価

教員の教育、研究、社会貢献、学内行政等にわたる評価システムを整備し、教育研究活動の活性化を図ります。

本年度は、顕彰規程等改定作業の完了を目指し、顕彰規程等の見直しを行い、本学にふさわしい教員評価規程を整備します。

#### エ 広報の強化

大学における様々な取組や成果を学内外に周知します。

本年度は、Instagram・facebook・Xの公式 SNS フォロワー数 5%増加を目指します。2026年2月に実施したウェブ解析の結果を踏まえて、ウェブサイトを改修し、SNS 運用ガイドラインを整備します。

### 3. 宮城学院中学校高等学校に関する事項

#### (1) 教育・研究

##### ア 建学の精神に基づいた教育

###### (ア) 建学の精神

本学院の目指す教育は、聖書の「隣人愛の教え」に基づき、世界の人々とともに歩み、人類の福祉と平和のために貢献することができる人間性豊かな女性を育むことにあります。これからも建学の精神を堅持し、女性に備わった資質・能力を見出しその特性を豊かに育む教育を実践します。

###### (イ) キリスト教教育活動

建学の精神及び年間宗教主題に基づいて全ての活動を行います。また、学校の使命（ミッション）を日々の教育に落とし込み隣人愛・奉仕など誠実さを重視する人格の形成、一人の女性として社会に貢献する力を育みます。キリスト教教育の要である日々の礼拝を大切に、生徒による感話の機会を設け礼拝を充実させます。

聖書科を設置し、全学年に「聖書」の授業を設け聖書の基礎知識、キリスト教倫理、歴史、自己理解・他者理解について深めます。校内外での奉仕活動、募金活動を行い社会貢献にも力を注ぎます。また、校務分掌として宗教部を設置し以下の宗教行事を行います。「キリスト教教育週間」「新入生オリエンテーション」「サマーキャンプ」「クリスマス礼拝」「特別礼拝」「創立記念礼拝」このほか、保護者向けの「聖書に親しむ会」や講演会、教職員にも修養会の時間を持ちます。生徒の活動としてはYWCAの活動を大切にします。奉仕、平和、人権、命の尊厳を大切にしながら他者への思いやりを育み、女性の視点から社会課題を考える場とします。

###### (ウ) スクールポリシー

建学の精神をより具体化したスクールポリシーを掲げて教育を実践します。

###### ● アドミッションポリシー～求める生徒像～

宮城学院の教育内容を理解し、確かな学力と豊かな知的好奇心を持ち備えること。また、多様な学びに積極的に臨み、自ら考え行動し他をリードしつつ多様性を尊重し、協働できる生徒。

###### ● カリキュラムポリシー～教育の方針～

英語教育・音楽教育・国際理解教育を充実させ、確かな学力と自ら課題を発見し解決していく力を育む教育を実践します。リーダーシップとフォロアーシップを身に付け、主体性と協働意識を養い、他者を尊重し、社会に貢献できるようにします。

###### ● グラデュエーションポリシー～卒業時に身に付ける力・卒業認定～

幅広い知識と高い学力、課題解決力を身に付け、主体的に自ら未来を切り拓く力と豊かな人間性を育みます。具体的に「真の平和を考え、人の痛みに共感できる感性」「問題・課題を自ら発見し、解決する知性」「多様性を尊重し、他者と協働して学び続ける力」「グローバルな感性を持ち、世界とつながるリーダー」を育てます。

##### イ 本学院独自の女子教育

###### (ア) キャリア教育の充実

「30歳の私」ロードマップを作成し、大学進学を含めたキャリア教育及び人生設計指導を充実させていきます。

###### (イ) スクールループリック

教育目標を具体化するとともに教員間で評価基準を共有し、学校の取組を可視化するためにスクールループリックを運用します。客観的に本校の魅力を明確にし、生徒の満足度向上に役立てます。また、課題を洗い出して教育内容の改善に努めます。さらに、建学の精神への理解を深め、教員がキリスト教教育を実践する指標とするとともに、全ての教育活動において教員間の共通理解を作り、対話と協働を促し、組織としての一体や信頼関係を作る基礎とします。くわえて、生徒がスクールループリックを活用して自らの目標を明確にし、学習や生活の姿勢を主体的に見つめ直すことで、精神的な成長を図ります。

#### ウ 時代に即した教育

授業の目標を達成するために ICT 教育を充実させます。また、生徒の情報収集能力が高まるよう適切な指導を行います。そのために ICT 推進委員会が中心となり、授業内での AI 活用に関する研修会を実施します。AI を含む ICT 活用の指針を明確にし、教員の授業改善につなげます。また、教員が情報手段の特性を理解し、指導の効果を高める方法について研究します。加えて双方向の通信技術を利用し、何らかの理由で登校できない生徒にも授業を提供できるようにします。

#### エ グローバル教育

##### (ア) 英語教育の体系的強化

中学校では、全生徒にオンライン英会話プログラムを課し、4 技能のバランスの取れた英語力を育てます。英語入試で入学した生徒 (E-Jr.) に対して、オンライン英会話プログラムのほかに、Impact (英語を母国語としない国の児童生徒向けに開発された教科書) を用いて、ネイティブ教員と日本人教員が連携し、英語力向上に努めます。高等学校においても 1・2 学年の全コースにオンライン英会話プログラムを課し、高い英語運用能力を身に付けます。グローバルコミュニケーションコース、特別進学コース、グローバルスカラーにおいては、更にレベルの高いコミュニケーション能力を育み、海外大学や英語に力を入れる日本の高等教育機関への接続を図る取組を進めます。特に、海外大学への進学を視野に入れた検定指導や受験対策の研究を進めます。また、英語弁論大会での上位入賞を目指した指導を行います。

実用英語技能検定において、各コースの到達目標を次の通り設定します。

- ・中学校 英検レギュラークラス：3 級
- ・中学校 E-jr.クラス：準 2 級
- ・高等学校 総合進学コース：2 級
- ・高等学校 グローバルコミュニケーションコース：準 1 級
- ・高等学校 特別進学コース：準 1 級

##### (イ) 海外研修・国際交流

世界の中の自分を知る機会として充実させます。海外に出ることで自分の価値観を相対化し、多様な文化や考え方に触れ、自分の世界を広げ変化させる機会とします。具体的には、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドへのターム留学を実施します。また、カナダの PCS (Pacific Christian School) との相互訪問を行い、姉妹校交流を継続します。あわせて、交換留学団体との提携を継続し、1 年間留学を充実させます。海外研修は単なる国際体験ではなく、「隣人愛」を世界規模で学ぶ場として位置付けます。

#### オ 教育の質の保証

## (ア) 教育品質基準の設定とカリキュラム改善

各コースのスクールルーブリック平均値 3.0 を目標とします。現行カリキュラムについては、2030 年以降の学習指導要領改訂を見据えた改善を検討します。

## (イ) 教員研修

学校教育の基本である教員の授業力及び生徒指導力の向上に努めます。

- a 「建学の精神研修会」を実施し、建学の精神及びキリスト教教育の具体化に努めます。
- b 学級経営・生徒指導について学びの場を設け、生徒満足度の向上に努めます。
- c 教員が日々の教育活動においてより効果的な指導・支援を行うために、コーチングの基本的な考え方と実践的なコミュニケーションスキルを習得する研修を実施します。
- d 新任研修や教員面談を定期的に設定し、本校教員としての基礎的資質・能力を高めることに努めます。

これらの研修プログラムの充実を図るとともに、PDCA サイクルを運用し学級経営及び授業の改善を図ります。

## (ウ) 外部評価

外部評価委員会を設置し、教育内容、生徒指導、学校運営、安全管理などについて外部からの意見を取り入れ学校運営改善に努めます。女子校における自己肯定感、キャリア教育の充実、ICT 教育、多様性への対応、安心・安全な教育環境など社会変化や時代に合った教育提供について客観的に確認し、学校の教育課題について検討します。

## (エ) 学習指導

- a 生徒が自ら学ぶ姿勢を大切にし、「実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能」、「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力」「学んだことを人生や社会にいかそうとする学びに向かう力や人間性」を育みます。また、主体的・対話的で深い学びの視点から「何を学ぶのか」だけでなく、「どのように学ぶか」も重視して探究型授業を実践します。
- b 各コースにおいて、それぞれの生徒の進路目標達成のため、各教科の指導による個々のスキルを引き上げる個別学習指導体制を充実させます。また、学校推薦型選抜、総合型選抜による進学実績を向上させます。総合進学コースにおいてはキャリア教育のプログラム「アクティブ講座」を継続して実施し、将来の職業を考えるだけでなく、自分らしく生き、社会で力を発揮するための生き方教育を実践します。社会で活躍する先輩を招き、講話やワークショップを通じて自分の将来について考える機会を積み上げます。生徒一人一人の価値を尊重し、他者に仕える心を持った女性の育成（キャリア教育）を体制として充実させます。
- c キリスト教音楽を大切にして音楽の授業を実践します。礼拝と音楽が深く結びつくものとして讃美歌を始め、宗教音楽を通じて感謝と祈りの心を育みます。讃美が祈りの言語として機能し、共に歌うハーモニーを調和させる経験を、豊かな人間性の育成を狙いとして大切にします。楽典や音楽史などの基礎を身に付けた上で讃美歌や、日本歌曲、イタリア歌曲など様々な音楽を通じて、また、弦楽器に触れることにより豊かな情操を育みます。くわえて感情を音楽で表現する力、美しいものを感じ取る感性、他者の表現を受け止める共感性、自己表現力など、音楽を通じて「自分らしさ」を見つける教育を行います。
- d 大学入学共通テストについて、各教科において研究を進め、授業内容に反映させます。

#### (オ) 生徒会活動

「民主的な組織の運営と自治能力の向上」「主体性と自立心の育成」「集団力の育成」を目標とします。多様な意見を受け止め、誰もが安心できる学校づくりを目指し、長い歴史と文化を受け継ぎ、発展させます。生徒の主体性、協働、共感、伝統の継承、挑戦する力を大切に、生徒会を通じて豊かな学びができるよう教育活動を推進します。他者を理解し、寄り添い、まとめる「サーバントリーダーシップ」の育成を目指し、みんなで創り上げる生徒会活動を支援します。集団の中で他者との関わりを大切に、生徒の自主性を重んじ、主体性を育成する教育活動とします。生徒会執行部を中心に行事内容やルールの見直しを促すとともに、責任ある行動が取れるように指導を行います。

#### (カ) 生徒指導

誰もが安心して生活し失敗できる環境づくりを目指します。不登校や発達課題・いじめ問題・SNSトラブル等に対して、学校と家庭及びスクールカウンセラーが連携し、一人一人の生徒への適切な支援と対応ができるよう取り組みます。特にいじめの問題は、未然防止に取り組むとともに毅然とした対応を行います。また、不登校生徒の一時的な居場所として「教育支援室」を校内に設け、支援コーディネーターを配置し安心できる環境を提供します。多くの人との関わりによって、不登校生徒の学校への復帰を促します。

また、思春期の生徒が抱えやすい「自己評価の揺れ」「人間関係の不安」「心身の変化」などに寄り添う姿勢を大切に、自己肯定感を育てる指導を行います。生徒との対話を重視し理解を深め、励ます教育を行います。単なる生徒指導ではなく、「女性としてどう生きるか」というテーマを掲げ、自分の身体を大切にすること、心の健康を守ることを大切に、「女性としての生き方」を支える視点を持って生徒指導を行います。あわせて、「学校生活アンケート」を年間3回実施して全校生徒の現状を把握し、生徒が心身ともに健やかに充実した学校生活を送ることができるよう人間関係のケアを丁寧に行いトラブルに発展することを未然に防止します。

#### (キ) 進路指導

「生徒一人ひとりの個性と強みを伸ばす」「自己肯定感を育て主体的な進路選択ができる」「女性のキャリア形成を長期的に支援する」「社会で活躍できる力を育てる」を基本方針として進路指導を推進していきます。

中学校年間行事として職業調べ、職場見学・体験、進路講話などを行います。高校年間行事では進路面談（生徒・保護者）、模試の実施と振り返り、大学説明会、小論文講演会、マナー講座、卒業生講話などの行事を設定し、きめ細やかで丁寧な指導により女子校としての進路指導の魅力を強化します。

学力向上と受験対策として、定期考査の分析会、特別講習会、長期休暇講習、小論文・面接指導、志望理由書の書き方指導を実践します。また、年数回の個別相談の体制整備、保護者との三者面談、保護者向け進路説明会を実施し、家庭との連携を重視しコミュニケーションを図りながら個別対応を強化します。

卒業生の進路データを蓄積、志望校合格の傾向分析、生徒の学力推移把握、進路指導の改善計画により、進路指導の質を高めます。

総合進学コースにおいては、高校生が大学の学問を知り、進路選択の質を高めるプログラムを実施します。特に宮城学院女子大学との高大連携を強化します。各学部学科の取組を早期に生徒に理解させ、それぞれの学科への進学者を増加させる指導を行います。出前

授業や健康講話、探究活動や大学生との交流など宮城学院女子大学の学びを体験できるプログラムを更に模索し、学びの接続を強化します。また、総合型選抜や学校推薦型選抜による進学者を増加させるように働きかけます。

特別進学コースにおいては、教科担当者と進路指導教員及び担任教員が連携し、進学指導を行います。また、宮城学院女子大学推薦入試（第Ⅱ期、第Ⅲ期）を活用させる指導を行います。グローバルコミュニケーションコース、特別進学コースグローバルスカラーでは英語に力を入れる日本の高等教育機関及び海外大学進学指導を推進します。

また、進路行事を通じて、生徒のモチベーションが高まる進学指導が行えるように改善を重ねます。

#### カ 本学院内の各校の連携強化

高大連携について、引き続き宮城学院女子大学の講義を高校生が受講し、単位を修得することができるよう連携します。また、次年度以降、複数学年で受講できるようにするために高大連携授業の拡大に向けて、カリキュラムの設計を開始します。

さらに、中高と大学の教員の交流を深め、各教科教育における協働を具体化します。中学生向け出前授業は学年別に実施枠を設けます。森の音楽会・クリスマス会・YWCA のこども園訪問活動など、こども園との連携を更に強化します。

#### キ 学習支援の充実

生徒自身の学力向上のため、自学自習の習慣をしっかりと身に付け、自ら学びに向かうことができるように指導し、生徒の自学自習を支援するため、引き続き放課後学習支援室（スタディモール）を運営します。運営会社アップルと教員が連携し、スタディモールの利用状況、成績向上の度合い、志望校合格率などの成果を継続的に検証し、適切な管理を徹底します。

#### ク 多様化への対応

インクルーシブ教育における「導入」の定義について、対象範囲、支援内容、実施単位を明確化し、それに基づく評価指標を確定します。

スクールカウンセラー及び教育支援コーディネーターを引き続き配置し、学習面・生活面・メンタル面を含む総合的な支援を支援委員会において継続して実施します。また、支援の質向上を図るため、事例研修会を定期的に開催します。

### (2) 社会貢献

引き続き、地域の自治会、公立小・中学校との交流を深め、地域に開かれた存在になれるような取組を模索します。特に受験生とその保護者の方には、自然豊かで美しい校舎を実際に見て頂く機会を増やし、地域から愛される学校として地域との交流、連携を強化します。

### (3) 経営

#### ア 人材の確保

生徒在籍数と必要教員数を見直し今後の人員計画を再検討していきます。採用後の研修を拡充し、バディ制度を導入したうえで、教員配置計画及び採用計画を策定します。

#### イ 人材の育成

建学の精神研修会、キリスト教教育研修会、Find アクティブラーナー研修、個別研修を継続し、それぞれの到達度、満足度、外部評価を用いた評価方法を設計します。研修後の実践

を促進し、成果の定着を図ります。

新任研修については、着任時研修とバディ制度を組み合わせ標準化し、授業改善、生徒指導、探究・ICT、保護者対応などの重点課題に沿った課題研修を試行します。研修後には実践報告を行い、共有と改善につなげるサイクルを確立します。

#### ウ 人事評価

評価制度の基本設計として、目標管理と行動・貢献の評価を組み合わせ、評価フローの設計を開始します。評価者研修では、面談の進め方、評価誤差への対応、記録方法を扱う研修などの準備を開始します。

#### エ 業務効率化

(ア) ICT 担当教員と各部の代表で DX 推進チームを立ち上げ、全所属における業務の棚卸を実施し、完了率 100%を達成します。

(イ) Google Workspace の標準的な運用体制を維持します。

(ウ) 自動採点の標準化に向けて、トラブル発生率や再採点に要する工数を点検し改善します。

#### オ 広報の強化

学校の使命（ミッション）を社会に伝え、共感してもらうための教育活動に今後も力を注ぎます。「一人ひとりを大切にす教育」「女性としての成長を支える環境」「主体的な生き方の素地づくり」を理念とし、本質的な魅力、学校の温かさ、安心感、女子校の強み、教育の質を正しく伝えます。また、6 年間の生徒の成長物語を受験生及びその保護者に、本校の魅力として共感していただくための言語化、見える化を充実し、その発信に力を入れます。

小中学生及びその保護者の各広報行事への参加動向の数値化・分析を行い、進路に対する考え方を研究し、入試広報部による効果的な入試広報活動を展開します。県内の小中学生及び保護者に宮城学院中学校高等学校の魅力十分に伝える活動を行います。あわせて、宮城学院女子大学の魅力を十分に伝え、宮城学院全体の受験生を増やしていく取組を行います。ホームページ及び公式 SNS（Instagram・LINE）は、対象となる小中学生及び保護者の目線で運用できるよう順次更新します。

中学校、高等学校の教育内容を広く周知するため、塾対象学校説明会、オープンキャンパス及び入試説明会を複数回実施するとともに、一年を通じて個別相談会を実施します。また、土曜日や平日の夕方に個別説明会や学校見学会を設けるなど、多くの保護者が説明会に参加できるようにします。このほか、各教科の体験授業会を開催し、受験生が複数回広報行事に参加できるよう工夫します。近隣の小中学校や施設で部活動の紹介、ボランティア活動を行い宮城学院の生徒が共に学ぶ機会を設けるなど、地域との関わりを強化します。

さらに、組織的に小学校・中学校・塾を訪問し、宮城学院中学校高等学校への関心と理解を深めるとともに、同窓会・PTA との連携を密にして、学校の魅力を伝える工夫を行います。また、英語入試受験生を増やすため、小学生を対象としたチャレンジングリッシュ、英語暗唱弁論大会を継続して実施するとともに、新たに他の教科においても小学生を対象とした教室を複数実施します。このほか、ソフトテニス班と吹奏楽班を強化指定班として、部活動体験会の機会を増やして小中学生に本校の魅力伝える取組を行います。また、本年度から新たに中学校ソフトテニス班、中高フェンシング班を新設し、強化指定班に加え魅力ある部活として発信します。くわえて各班が「中高 140 周年記念催事」を積極的に企画し、地域、自治体、企業などへの感謝を込めたイベントを 1 年間かけて実施します。生き生きとした生徒の活動の様子を見ていただき、広く社会の方々に認知していただけるようにします。

推薦入試において、リーダーシップ推薦や部活動推薦の拡充に努めるとともに、近隣小中学校からの受験者増につながるよう広報を展開します。また、公共交通機関の利便性をアピールし、JR 及び仙台市営地下鉄沿線の地域からの受験者の獲得に努めます。あわせて、帰国生入試、転編入学入試を引き続き行います。

カ スクールバス

スクールバスについて、運行経路の縮小、料金改定など運用全般について見直しを継続して行い、更なる経費削減に努めます。

## 4. 宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」に関する事項

### (1) 0～5 歳児の保育

#### ア 建学の精神に基づいた教育・保育

本年度は宮城学院創立 140 周年、こども園も 10 周年という記念すべき一年となります。建学の精神、聖書に基づいた人間教育を行うために、日々の礼拝を大切にします。また、これまで以上に保護者の方々のご理解ご協力をいただくとともに、大学附属施設として、大学、中高との交流を更に深めながら教育・保育活動を行います。

#### イ 森のおんがくかい

中高の弦楽班のほか、外部からの奏者をお招きし管楽四重奏やハーブコンサートなど、年 5 回程度の「森のおんがくかい」を開催し、良き伝統として根付かせます。引き続き、保護者の方への参加も呼び掛け「本物の音に触れる」豊かな時間を大切にします。

#### ウ 環境整備

芝生の園庭や森の環境を整備し、環境をいかした保育の充実に努めます。また、昨年度クマ騒動で中止せざるを得なくなった栽培活動については、安全を確保することができればこれまでの経験をいかして取組を再開します。さらに、これまで実現できなかった園周辺の森の整備やマップ作りについて保護者の方々にボランティアを募り、子どもの遊びと学びの環境整備と一緒に取り組んでもらえるよう検討を進めます。

#### エ 社会連携

石巻市の山形屋さんの指導のもと行っている味噌作りは 2 年経過しました。ご家庭でできる「味噌作りキット」の販売も好評で保護者の関心の高さも伺えます。本年度は更にブラッシュアップした取組となる見込みです。

#### オ 人材の確保

長く続いている保育教諭の不足を解消し、子どもの最善の利益を追求した保育の継続、子ども達の遊び、経験、学びを積み重ね、継続性のある保育展開ができるように努めます。そのために人的・物的環境を整え、子どもたちと保護者が不安にならないように職員一同コミュニケーションを取り合うようにします。

#### カ 研修

教職員一人一人が自己研鑽を積むと共に、園内研修や会議を通じて本園が目指す保育の共有にも努めます。なお、園庭開放や在園児や地域の方に向けたイベントも定期的開催し、家庭や小学校との連携、他園の活動や保育教育に関する情報収集、社会情勢の変化を見据えながら AI を導入し業務の軽減や HP などによる園（保育）の情報発信など積極的に広報にもつなげよう検討を進めます。

### (2) 食育

#### ア 給食運営

本年度は、シルバーパートが代る新体制の中で、職員同士でコミュニケーションを取りながら、安全かつ円滑な運営を目指します。また、衛生基準の再確認を行い、共通理解を深め、その上で作業効率などを定期的に見直し、安全かつ円滑な運営を目指します。

#### イ 体験活動

食に関わる保育活動の充実も図ります。これまでに引き続き、食の生産に関わる人との交流も大切にします。具体的には、昨年度子どもたちが野菜の生産者とともに育てた大豆で、

山形屋さんと味噌作りをし、その味噌を使って調理をし、食べる・食べてもらう等のつながりのある経験を提供します。その中で、子どもたちが食の循環を感じられるようにします。

#### ウ 保護者支援・大学との連携

昨年度、新たに行った喫食状況調査や保護者へのアンケートをもとに、園児の実情や保護者の意見を把握し、給食運営にいかします。具体的には、子どもたちの嗜好を反映した献立作成や食育活動を実施し、より食への興味関心を高めます。また、保護者へのアンケートで多く寄せられたレシピの紹介や嗜好品との付き合い方などの疑問に答えるような給食だよりを作成します。また、大学との連携にも取り組みます。学生と共に保護者と子どもにベジメータ®測定を定期的に行い、保護者と交流し、相互理解の糸口にします。

※ベジメータ®は、光を使った光学的皮膚カロテノイド量測定装置です。白色 LED を指先に 10 秒間照射するだけで、簡単に野菜摂取状況を評価できます。

#### エ 栽培活動

これまで続けてきた食育活動を継続しながら、新しい活動も取り入れ、本年度も本園の畑や森の環境をいかした食の保育活動の充実をより一層深めます。

### (3) 子育て支援

#### ア 未就園児クラスの開設

2024 年度以降、人的配置が困難で実施できなかった子育て支援事業（「どんぐりくらぶ」「すくすく赤ちゃん」「にこにこ Day」「子育て講座」等）を、本年度は、できる範囲で実施します。

これまでの新入園児の多くが、『未就園児親子クラスどんぐりくらぶ』の出身者でした。「自然環境をいかした活動」を親子で体験していく中で、本園への理解が深まって入園することで、入園後の生活もスムーズに展開されていくという流れを今後も継続します。

#### イ 保護者支援

また、「親子のひろば」だけでなく、「大人のひろば」も大切にします。核家族化や、ワンオペ育児等で、母親の不安感やストレスが多くなっています。困り感を話したり、分からないことを聞いたり、ほっと一息つける場があることで、親の心が安定し、子育ての向上につながります。

#### ウ 学びの場の提供

さらに、大学附属の園であることをいかし、「子育て講座」の開催も大切にします。普段の育児から少しの時間でも離れて、専門家の話を聴くこと、参加者同士で情報を交換して共有することで、親自身が学びを深め、幸福感を持って子育てができるよう支援します。このような学びの場は、保護者だけではなく、職員の学びにもつながります。

### (4) 児童クラブ「森の家」：小学 1～4 年 20 人（桜丘・上杉山通・長命ヶ丘・北仙台・南光台東）

#### ア 安心して過ごせる場所として

本年度は、新たに 1 年生 6 名を迎え、計 20 名でスタートします。子どもたち一人一人が安心して過ごせる居場所作りを大切に、学年を超えた関わりの中で、遊びや生活の約束について話し合いながら、主体的な生活を目指します。また、利用児童全員が卒園児であるため、森の自然・恵みをいかした遊びや生活文化を大切に継承しつつ、小学生ならではの活動や新たな学びへとつなげていきます。また、在園児との交流を積極的に行い、こども園の環境を

いかした経験を積み重ね、年齢の違いを超えて互いに育ち合える関係づくりを大切にします。

イ 森の教室

長期休業中には、大学の先生方や学生などを招き、普段とは異なる視点や多様な分野に触れられる体験活動を計画し、子どもたちの関心や学びが広がる実りある時間を創出していきます。

## 5. 宮城学院女子大学附属音楽教室に関する事項

### (1) 教育

様々な年齢の様々な状況にある生徒各々が、より良く学びを継続できるよう体制を整えます。スタッフ・教師が生徒や保護者とコミュニケーションを密に取りながら、音楽やその授業を通じて充実感を得られるよう、教育活動を展開します。

2024 年度から再開し弦楽器専攻生を対象に行っている合奏授業を本年度も継続し推進します。他者と共に奏で、他者の音を聴くことにより、個人授業だけでは決して得られない貴重な学習の機会を作ります。また、弦楽器専攻以外の生徒にも、ソルフェージュ授業などを通じて、他者との協調の機会を積極的に設けます。

日々の学習の到達度を確認する機会としてのテストは、例年どおりピアノのエチュードテスト、ソルフェージュテスト、声楽テストなどは継続して実施します。ただし、テストにこだわらず生徒各々に応じた進捗の確認を行います。また、それらを通じてより一層教室生の基礎力を強化していきます。

ワンレッスン受講については、幅広い年齢層の受講が多くなっていることから、各々の学びに寄り添うことはもちろん、受験生獲得や本学音楽科合格者の基礎力強化の機会となるよう、質の高い教育を提供します。

### (2) 行事

#### ア 発表会

本年度も教室生の学習発表の場として、発表会を開催します。ステージでの演奏が音楽学習者の成長に欠かせない経験として必要であることに加えて本教室の教育内容を、保護者を始めご家族にお伝えできる機会として活用します。

#### イ クリスマスコンサート

仙台市泉区のショッピングモールタピオでのクリスマスコンサートでは、2024 年に再開した教室生の弦楽合奏の出演を本年度も目指します。昨年度に引き続き音楽科とも連携しながら、多くの教室生がアンサンブルを経験できるような企画を目指します。毎年多くの観客の方々が、リハーサル時から温かい拍手を送ってくださる経験が、生徒たちの成長にも良い影響を与えると考え、本年度も継続します。

### (3) 広報

これまで同様音楽科学生の出身高校や、県内小中高、また東北六県の楽器店などへ音楽教室の案内送付を継続します。近隣の団地へのチラシの折込も継続します。

また、音楽科と連携しながらオープンキャンパスでの受験生への案内や早期合格者への案内も、積極的に行います。昨今の音楽科入学者には、音楽教室での学びが非常に有効と捉え、そのためにも音楽教室の存在を広めます。

## 6. キリスト教センターに関する事項

建学の精神である福音主義キリスト教に基づく教学の遂行を支援します。本学院で行われる礼拝が正しく守られるよう配慮し、建学の精神の理解を深め、浸透を図ります。学院宗教総主事、学院宗教主事、大学キリスト教センター長、中高宗教主事が中心となり、キリスト教センター運営委員と協働しつつ、センターの働きを強化します。

学内においては、法人、各設置学校（大学・大学院、中学校高等学校、こども園）において行われるキリスト教教育活動について、宗教委員会小委員会及びキリスト教センター運営委員会によって掌握し、全学のキリスト教的活動を相互的かつ包括的に遂行し支援します。また、創立記念行事、同窓会行事などにおいては、本学院が重きを置く行事として主催部署と協力を図ります。

学外においては、関係学校、関係教会と連携・協力し、宗教活動を遂行します。

### (1) キリスト教センター運営委員会

教職員礼拝、特別礼拝（宮城学院クリスマス礼拝（公開）、東日本大震災追悼記念礼拝）、キリスト教講座、説教者奏楽者懇談会を開催します。大学新入生ガイダンス、クリスマス・イルミネーション点灯式、クリスマス・チャペルコンサート、クリスマスカードの作成、クリスマス献金を企画し実施します。刊行物として、『GLORY TO GOD 宮城学院教職員礼拝説教集』、『礼拝ガイド』を発行します。また、宮城学院ホームページにて、キリスト教的活動・イベントの情報を提供します。

### (2) その他

ハートフルボランティア・サポート事業、クリスマスを祝う音楽会、災害募金、大学 YWCA・大学聖歌隊・大学ハンドベルクワイア、礼拝堂における諸活動（礼拝、パイプオルガンの練習、特別展示会場、特別講義や会議の開催、同窓会・保護者などの活動、キリスト教特別団体の活動など）の活動支援を行います。

## 7. 資料室に関する事項

- (1) 本学院の歴史に関する資料の整理・保管、調査・研究及び情報の提供・公開について
- ア 資料の整理・保管  
「宮城学院八十年小史」をデータ化します。また、紙資料の PDF 化を進めます。  
資料の保存、収蔵施設の整備を行い、経年に耐えうる保存環境の整備、防虫処理などに努めます。
  - イ 資料の調査・研究  
本学院の歴史に関する資料を収集し、調査・研究を行います。また、その成果を『資料室年報 32 号』で発表します。
  - ウ 情報の提供・公開  
レファレンスに対し、本学院の歴史に関する情報の提供・公開を行います。
- (2) その他
- ア 大学の授業科目である「リベラルアーツ基礎 D (MG 史)」への授業協力、中学校高等学校の創立記念行事における中学 2 年生への講演を担当し、宮城学院の歴史を伝える取組を行います。
  - イ 宮城学院創立 140 周年『宮城学院最近 10 年史 2017－2026』刊行に向け、10 年史編纂委員会を開催します。